2019.5 No.1015
令和元年5月1日発行
編集・発行　鶴ヶ島市秘書広報課　〒350－2292　埼玉県鶴ヶ島市大字三ツ木16－1　☎049・271・1111(代)　FAX 049・271・1190
市ホームページ

キラリ☆つるびと 10
We are Tsurugashima

音のないサッカー

静かなる闘志

パスをつないだその先にゴールがある

大縄（おおなわ） 泉美（いずみ）さん（18歳）

アレグリーナ所属・デフサッカー女子日本代表選手
第4回アジア太平洋ろう者サッカー選手権大会　優勝

◀メダルの裏には、手話で「I love you」を表すマークがサッカーボールと共に刻まれています

サッカーとの出会い

泉美さんは、聴覚障害者のスポーツ「デフサッカー」の女子日本代表選手です。昨年行われた「第4回アジア太平洋ろう者サッカー選手権大会」では、代表初選出ながら、準決勝でゴールを決めるなど日本の優勝に大きく貢献。2020年の「ろう者サッカーワールドカップ選手権大会」への出場権を獲得しました。

デフサッカーのルールは、一般的なサッカーと同じですが、全選手が音の聞こえない状態でプレーをするという公平性から、試合中は補聴器を外すことが義務付けられています。選手は笛の音が十分に聞こえないため、審判は笛とフラッグ（旗）の両方で合図します。

泉美さんは生まれたときに聴覚に障害が見つかりました。小学4年生でサッカーと出会い、当時は健常者のチームに所属し、男の子と一緒にプレーをしていました。最初は戸惑うことも多かったそうですが、チームメイトや監督が練習中にもフラッグを使うなど協力をしてくれたので、「サッカーを楽しむことができました」と振り返ります。いつも応援してくれる周りや家族への「ありがとう」を忘れません。

強みを武器に

泉美さんのポジションはサイドバック。攻めるよりも守りに向いているとアドバイスを受けました。「私は体力には自信があります。スタミナを活かした粘り強いディフェンスが自分の強みだと思っています」。

本格的にデフサッカーを始めたのは高校生から。「大きな差は感じませんでした」。ピッチでは手話と、手話が分からない選手とは口話で、口の動きを読み取って意思疎通を図ります。高校2年生で代表に選ばれ、世界が広がったと言います。「全国から集まる選手との交流は良い刺激になります。手話にも方言があるので、それもおもしろいですね（笑）」。

再び頂点を

4月から社会人となり、仕事とサッカーを両立させている泉美さん。「もっとたくさんの人にデフサッカーやデフリンピックを知ってもらいたい」。仲間と共に夢をつなぎ、2021年のデフリンピック出場をかけた11月のアジア大会と、2020年のワールドカップで金メダルを目指します。

編集後記

5月は自転車を楽しむには最高の季節。天気が良い日のサイクリングはとても気持ちがよさそうです。誰でも気軽に乗ることのできる自転車ですが、事故の加害者となれば高額な損害賠償を請求されることもあり得ます。ルールやマナーを守るとともに、自転車事故のリスクに備えて必ず保険に加入しましょう！
ご意見・ご感想は秘書広報課広報広聴担当へ
✉10200001@city.tsurugashima.lg.jp

“これからパパとママとお出かけだよ！”
藤田麗生（ふじたれい）ちゃん（11か月）

笑顔の天使

“次は何して遊ぶ？”
稲垣陽優（いながきはるま）ちゃん（5か月）

■ 5 月号には、『「つるバス・つるワゴン」の時刻表』、『市議会だより 187 号』が折り込まれています。